日本文化原論 永続思想 主体性学

令和８年 11 月９日

横山 俊一

1)概論

1-1 答えと思考、結果と過程

例えば、増税すべき減税すべきである。結果性に対し過程を示し答えと判断に至る考えを纏め表す思考が要る。論旨の集約、

1-2 評価性と扱い

個々の現象への一時的な心象と表現に偏り、結果と過程を簡潔に纏める考えが乏しいと健全な生産者の資質が見られず正よりも負の心象が増し削減や排除、無関心の因果が働く。健全な表現、人間性人格性が見られず、粗末な生、無用な対象負の対象、要らぬ評価と作為が進む。

1-3 現象特定、関心観測、評価、制約、論旨の導出

個々の現象を気ままに、無責任的に発言し、外界を惑わす歪化した性格は正より負の質感が増す。問題性に対し制約要素が整理される。施策の一種となり対処と予防の効果を生む。

2)因果分析、局所と短期性

2-1 部分指摘、総括性の弱さ、気まぐれ、露出狂、荒れた生

マスコミが悪い、政治が悪い、教育が悪い、法律が悪い、宗教が悪い、金狂いの金満経営が悪い等々、個々の表現を気ままに表す。対立性の増す不調和と破壊の軌道を押し進める。

2-2 感覚過多と部分最適、抽象過多の歪性

刺激と効果の過剰、即効、短絡、部分最適という感覚性の偏り、なんでも力で押し通す物理力の異常な活用と弊害性、「平等や自由、民主主義、」「戦争と平和」などという抽象観の形成と活用に際し中身の整理された皮膚感覚に伝わる直接間接の因果と考えを表す態度が望まれる。

2-3 自律性、犯罪病理性

産出と検証と改善の習慣、生産範囲と自律性、権利義務均衡、
自己不在性、破綻的性質、健全な自己性、

Created by Universal Document Converter

3)特定領域、構造と中期性

3-1 原因と分析、因果の総括

こうした事態の原因は根本性と基礎性が悪いと原因付けられる。共通的土台性、基礎性が脆弱で二次三次の表層事象が作られる。

3-2 力の支配、肥満と堕落、犯罪病理性

物質的力、構造性に依存し対象を強引に従えさせる力の支配、意味不明性の言葉や概念と表現を広げる肥満と堕落性、非人間的な性質を深め広げる。習慣が性質を作り直接間接に因果を広げ特定領域と全体性の慣習や秩序を作る。破壊と粗雑な生の基調や軌道を進行させる。

3-3 生の病み、生命、宗教、文化性

裏でこそこそ盗む病理、慢性化した生の不良、生命人間観の欠陥を表す。力と責務の不均衡、破綻的な力の支配、部分最適、偏狭、羅列断片錯綜重複の表現、思考停滞、頭と体と精神と感性の分断、活動習慣の歪性、犯罪病理、局所と構造と性質、短期中期長期の因果、

3-4 特定分野の活動と成果、判定

専門的な研究と産出の成果が弱いと歪な現象に箍のかからぬ事態を生じさせる。狭い意味の利益追求、統治と政治に偏り生命と根本を土台にもって一巡的完結の周期と体系の持続する広い意味の生命や人間観と統治政治の観点が萎む。根幹の痩せた部分最適の領域と現象を生む。

3-5 理想と現況と方法、検証改善持続

教育性の主導的な立場を有する特定領域の活動と成果が、各種現象となり表面化する。どのような人間像や人格観を基本的な理想に求め作る態度と活動の習慣にあるか、生命と領域の基礎と基軸と全体の概念形成上の問題、概念と運用上の問題、歪な流通性、適正な働きを遂げる流通か、検証と総括、事後の改善と持続的完結の周期と体系の仕組。

3-6 定常的仕組：領域観と循環系、観測評価、制御性

教育系：教育基礎、法務、総務、経済系：財政、金融、マクロ、
宗教と哲学、教育と経済、政治、地域、産業、
構造周期体系：基礎制御全体、縦割断片不整合、分化と統合の適正、

Created by Universal Document Converter

4)因果の深堀、本質性、性質と長期

4-1 深耕解明、主観客観、歴史理論、私公、過去未来、静動

4-1-1 主観、感情、相対性、動物的、歴史、仏性

私怨、一過的場当たり、小細工ギャンブル、無思慮ロボット、短絡即効、陶酔、急変、物理受動過多、見栄、期待効果不均衡、制御不能自律喪失、支離滅裂、表裏乖離、不信と断絶、負の情念の広がり深まり

4-1-2 客観、理性、普遍的不変の要素、人間的、理論、神性

正々堂々、清々しさ、健全な感性概念精神身体、産出と検証と持続、根本且つ全体大局観と個別特定、表裏内外の一致、信用持続、因果観、

4-2 文学神話宗教、哲学文化(哲学科学技術)、健全活動習慣、人間

特定物語、特殊的ストーリー、歪な全体性と文化観、気分転換開放性と基礎基軸性、思慮概念精査、産出検証習慣、言行整合、落ち着きある精神と産出制御、生物物理と文学と哲学文化の相関、定常非定常と異常、歴史理論、動態静態、仏性神性人間の適正、想像創造に向かう。

5)根本基礎、全体大局の分野、短期中期長期の相関

5-1 生命人間学

変わりづらい現象観や活動法則、創造原理、分化と統合の規則性などとして集約の表現が作られる。人間像や人格観に抽象される。人間とは、主題と答えが示す生命人間学という特定領域に整備される。

5-2 概念見識性

整理、分類、統合、交通整理、流通性、思考、概念、見識性、

5-3 因果と思考、評価性

結論と過程、直接間接、根本原因、生滅、快不快善悪美醜、真偽正負

5-4 現象観、活動観、創造観、分化と統合の原理

主題性：○○とは、△△である。現象性：これに対し現況は××である。△△に向け□□をする。□□とは、何時何処で誰が何をどうする。意図と結果の検証：どうなった。施策の有効収益安全成長健全、

Created by Universal Document Converter

5-5 産出性：個別特定全体

個別施策と全体性、創造全容と部分の相関、短期中期長期の因果想定、

5-6 基礎性：活動と習慣

休息と働き、緩和と緊張、割合の適正、活動と産出の良好性、食べた、寝た、栄養補給、休めた、頭がすっきり、良い産出と働きを生む。情動と精神神経の安定、良好な思考と産出、良好な感受性、再生産と持続、基軸的活動習慣と娯楽気分転換とリスク管理、3 つの側面とバランスから好循環と負の循環系を生む。

5-7 生の枠組性

変わりづらい価値観、時々の諸状態の変動と適正化の作為、根本性、基礎性、個別性特定性全体性、体系周期持続、抽象理念、動静、因果、

5-8 基礎科目性の産出、役割

原因と結果、因果、分化と統合の原理、変わりづらい創造法則が作用する。健全な表現や生産の作法を共通化し根本と基礎の適正が揃えられる。基礎科目性の役割と効果性の認識を生む。完全性の追求という思考が無くなると不完全性が増す。樹木と人間、神仏と人間の相関、

5-9 主観と客観、思想と世界観と活動性、動静

感情が生まれない動物はいない。主観的要素を生みながら長らく良好な世界を求め自他の再生産と持続を思考し概念や見識を作る想像と創造を生む。客観なる観点と運用が進む。直線的一方向の上下性の世界観に留まるか、相互的循環と持続の世界観と実現に向かうか、理論：永続思想と主体性学、経験：日本文化原論、動静：七色の虹の架け橋、

5-10 売国性、健全な論理と行為、習慣と性質

他国の利益と私的利益を優先し、自国に損害を与える性質は自国の中心や中枢、基軸には適さない。歪な偏りの感受性と理論と行使の姿を見る。自国の利益には自他を含む利益を問いながら概念世界観を引き出し自他の特性を観測し自立と協業の持続に向けられる。

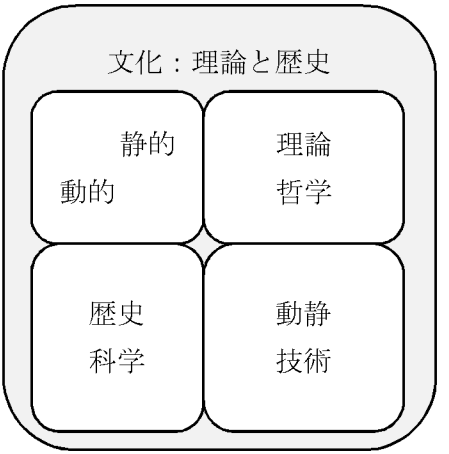
5-11 根本の歪性

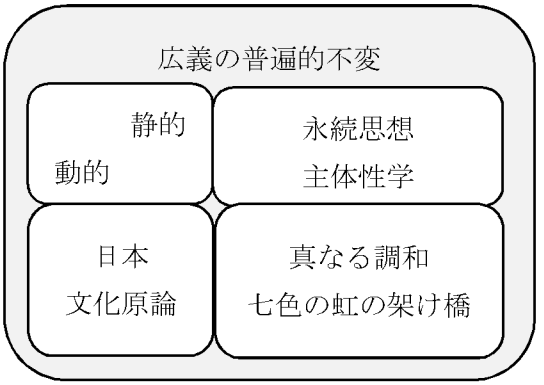
妙に他地域の様式に被れ自国を見下し目新しさと小細工の差別化を図り、優越願望の激しい発想と思考と作為をもって自存と成長を企てる性格は不

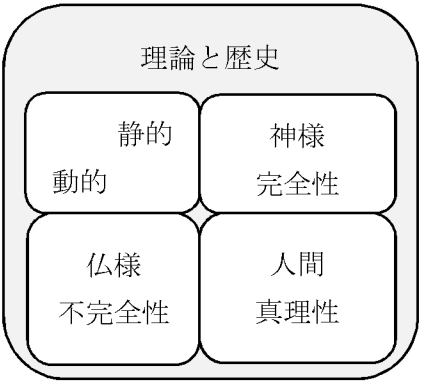
Created by Universal Document Converter

快が増す。根本に欠陥が映る。どこの空間にいっても削減と排除の対象を招く。慢性的な盗みや詐欺、暴力、基礎の弱い躾と行儀の悪さを伝える。肥満な保守と破壊的な自由、標準と過不足の相関、







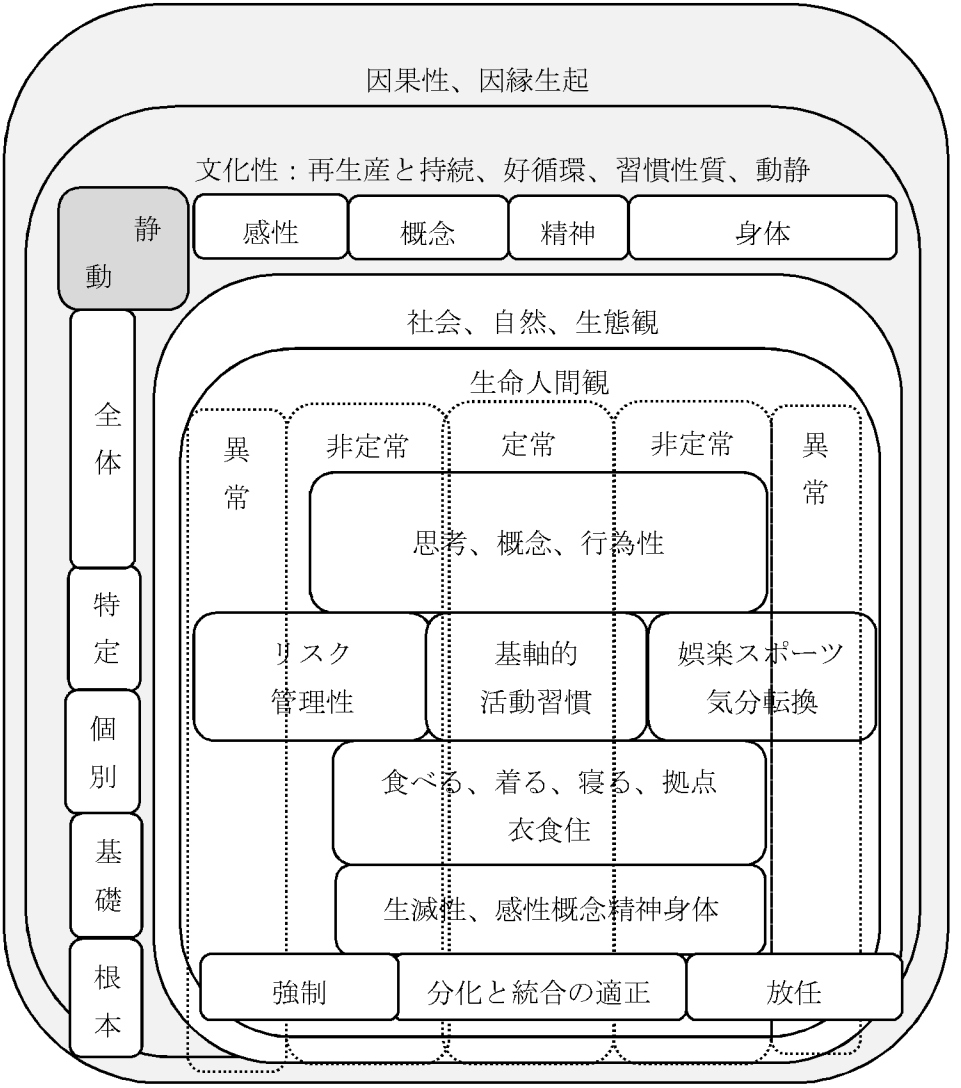


5-12 創造力と社会性と自然性、味覚、色彩

作り手への心象が悪いとかわいいオカメも負の認識が生じる。旨い料理も喉が通らない。製造と流通の分断、資本と経営と技能の分断、
創造力と社会性と自然性は切り離せない因果を生む。「金に色がつかない」味覚の減退や色彩の喪失した感覚と感性に戸惑いや疑問が起こらない状態は正常に映りづらい。感性と概念と精神と身体、生命と人間、政教分離という抽象観に深みある考察と哲学の見解をもって現象の良し悪しや作為を投じる性格が望まれる。無思慮物理性に対し「宗教、倫理、道徳、哲学、

Created by Universal Document Converter

文化、戦争、平等、自由、平和、因果」等の抽象観について、理解と納得、共感の増す解釈を引き出す創造が起こる。



Created by Universal Document Converter